

～辞書アレコレ～ その2

今回は英語辞書の歴史をかいつまんでお話ししました。の中にはその後、何回も改訂を繰り返して現在も出版されている物があります。例えば *Oxford English Dictionary (OED)* がそれです。これは本館の第一閲覧室の辞書コーナー（下段）にあります。実際に見ていただければお判りかと思いますが、全体で20冊という構成になっているのには驚きです。これを全ての英語学習者にオススメしているのでは決してありません。なぜなら、この辞書は英語のネイティブ（しかも大人）用に編纂されているからです。ですから単語の説明文にはネイティブであれば当然知っている単語が出てきますが、英語学習者はそれを知らないという場合がよく起こります。やはりこの辞書は上級者向きと言えるでしょう。英語学習者が英英辞書を使う際には、それを意識した辞書を選ぶのが得策だと思います。

では、閲覧室に沢山並んでいる中からどれを選べばよいのでしょうか。やはり最終的には自分が使いやすいと判断した物が一番ですが、一つの目安を挙げてみますので参考にしてください。英語学習者向けの英英辞書としては、次の三冊に定評があります。これらは全て現時点で閲覧室にすぐ利用できる物ばかりです。

Collins Cobuild advanced learner's English dictionary 4th ed.(423-Coll)

Oxford advanced learner's of current English dictionary 6th ed.(423-Oxfo)

Longman dictionary of contemporary English 4th ed. (423-Long)

()内は請求記号を示しています。第一閲覧室にある辞書コーナーの中で、本の背の赤色ラベルに書かれています。因みに三冊は全て423という数字が付いています。これは4が言語、2が英語、3が辞書を意味しているのです。その次のアルファベットはそれぞれ異なっていますが、例えば *Collins Cobuild essential English dictionary* の請求記号は上記と同じで423-Collとなっています。これは二冊ともCollinsの最初の4文字を使用しているために同じ請求記号になるのです。ですから同じ請求記号でも、別物があるということを覚えておいて下さい。

さて についてですが、ほとんど文字ばかりで構成されていて、使用されている単語も他の二冊に比べてやや難しいように思います。図は巻末にまとめられているので、素っ気なく感じられるかも知れません。 は白黒やカラーの図が多用されていて、視覚的にも判りやすいようになっています。そして は基本的に と同じような構成となっていますが、特徴として *The 3,000 most common words in English are printed in red letters.* と解説されている通り、最重要3,000語の見出しは赤色で印刷されています。またカラーの写真や図も豊富に使われているので、初めて英英辞書を手にする人にとって使いやすいと思います。なお、これら三点の辞書以外にも多くの種類がありますから、ゆっくりと品定めしてみたいかがででしょうか。ただし辞書類は館内閲覧しか出来ませんので、念のため。

ふじい たつや（司書・図書館係長）